2018-19 53th

Rotary クラブ週報

東京城東ロータリークラブ

2019. 2. 25 第2453回例会

会長テーマ 若井一郎

「親睦と友情を見つけ 楽しいクラブに」

国際ロータリー会長
バリー・ラシン

第2580地区ガバナー
松坂順一

第2580地区幹事
今井 忠
(当クラブ担当)

ガバナー補佐：江川 勝
東分区幹事：石渡嘉郎

インスピレーションになろう

例会日：毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場：東武ホテルレバント東京
〒130-0013 墨田区錦糸 1-2-2 Tel:03-5611-5511

事務局：〒130-0013 墨田区錦糸 1-5-5 A ビル
Tel:03-5637-4605 Fax:03-5637-4611
E-mail : jyoto@club.email.ne.jp

会長：若井 一郎　副会長：秋山恭一郎
幹事：根本 弘道　副幹事：今井 邦彦
会報委員長：村上 愼吾

2019/2/18(月)
「講談 伝説のボクサー白石義男物語」
講談師 宝井琴柑 氏

2019年2月18日 例会報告

点 鐘	
ロータリーソング	『我等の生業』
ゲストスピーカー	1名
ゲスト及びビジター	3名
会員出席状況	43名30中名(出席率69.77%)
前々回訂正出席率	100%

ニコニコボックス

◎本日はよろしくお願いします。
船橋 RC 青木忠茂様

○宝井様、本日の卓話よろしくお願い致します。
根本弘道君・秋山恭一郎君・今井邦彦君
奈良康司君・上條隆志君・池永憲明君
佐野一信君・渡辺孝至君

○お祝いを頂いて。
奈良康司君・会田 博君・宮﨑浩一君
大鳥居武司君・田島敬三君

小計￥42,000.- 累計￥1,421,000.-

- 来月3月の受付当番 -
今井君/宇都宮君/篠田(秀)君/杉田君/鈴村君

本日の卓話

「 第4回クラブフォーラム 」
【国際奉仕委員会担当】

例会場にて引き続き開催

次回の卓話

「 免罪事件の現実と対応 」
（もしも痴漢と間違われたら）

杉田敬光 会員

会員皆様よりのご投稿を随時募集しています！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

RIニュース：2019. 1. 23

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

ウイルスハンター

パキスタンパンジャブ州の世界保健機関 WHO サーベイランスオフィスに勤務するウジャラ・ネイヤーさんは、ポリオのない世界というビジョンを抱いています。眠っているときにそのビジョンの実現を夢見ることもあるそうです。

彼女はふだん、保健員チームを率いてパンジャブ州を四方八方に動き回っています。ポリオウイルスによる発症の可能性が報告された現場に赴き、下水調査などを行って徹底的に調べるためです。パキスタンでは野生型ポリオウイルスによる発症が続いており、現在、そのような国はパキスタンを含め世界に 2 カ国あります。

課題はウイルスの監視活動だけではありません。ジェンダーに基づく壁に直面することもあり、この壁が発症数の確認作業と環境サンプル採取の妨げになることがあります。

ネイヤーさん自身、家屋やセキュリティ・チェックポイントで男性からの抵抗にあうことがありますが、そのようなときは感受性をもってしっかりと主張して抵抗を乗り越えています。

ポリオとの闘いでは女性が重要な役割を担っていると彼女は言います。パキスタンでは、最前線で活動する保健員の 56％が女性で、女性による子どもへの予防接種を好む母親は 70％以上にもなります。

しかしそれでも、保健員の顔を見てドアをバタンと閉めてしまう家族もいます。ポリオウイルスが検出された場合、その地域社会のすべての子どもに予防接種できるよう、保健員チームは複数回、一つひとつの家屋を訪れる必要があります。すると、何度もワクチンを与えられることに懐疑心と怒りを感じる親も出てきます。ネイヤーさんやチームメンバーは、日常的にこのような親と向き合っているのです。

ネイヤーさんは話します。「こんなとき親御さんに否定的な態度をとることはできません。耳を傾けることが大切なんです。女性の保健員はそれが本当に上手なんですよ」

ポリオ撲滅が間近に迫った今、ネイヤーさんが「ポリオ撲滅の支柱」と呼ぶサーベイランス（監視活動）は今までにないほど重要となっています。

Q: どのようなサーベイランス活動がありますか？
A: サーベイランス・システムには 2 つのタイプがあります。一つは急性弛緩性麻痺（AFP）のサーベイランス、もう一つは環境的サーベイランスです。撲滅が達成された後もサーベイランスは続けられます。
Q: ウイルスが検知された場合はどうなりますか？
A: ポリオウイルスの検知対象が人であれ環境であれ、3 回に渡って予防接種キャンペーンを実施します。その対応範囲は、伝染状況と独自のリスク査定に基づいて決定されます。
Q: パキスタン特有の課題は何でしょうか？
A: 人の移動に伴って高いリスクが生じるため、移動人口に特化した医療キャンプを実施しています。定期的予防接種は全ての子供の権利であるものの、貧困や教育の欠如のためにこのような特別医療サービスを受けていない人が多くいます。
Q: ポリオ予防接種に懐疑的な人達を、どのように説得していますか？
A: 地域社会の人達を動員して、予防接種の利点を伝えるようにしています。プログラムをここまで前進させることができたのは、このような最前線で動いてくれる人達がいるからです。目下の課題は予防接種に対する人々の「疲れ」が見えることです。環境サンプルからウイルスが検知された場合、その近隣地域で短い期間に 3 回の予防接種を行う必要があります。それも毎回、家屋を一戸ずつ訪ねて回るのです。
Q: あなたの活動にとって、ロータリーの役割とは何でしょうか？
A: ポリオ撲滅活動は、公衆保健の歴史上最も長く続いているプログラムですが、ロータリーは現在も支援を続けてくれています。「ロータリーはより健康で、平和で、持続可能な世界に対する国連のコミットメントを共有しています。また、他の組織にはかなわないものを提供します。それは、奉仕と平和という精神の下に世界中の人々がつながることができ、目標に向かって意義ある行動を起こすことのできるロータリーのインフラです」